



BirdLife International Tokyo

バードライフ・インターナショナル東京

# バードライフ・インターナショナル

## BirdLife International

バードライフ・インターナショナル（以下バードライフ）は、1922年に英国で鳥類の研究と保全のために設立された世界で最も古い環境NGOです。現在は、英国ケンブリッジにある本部と6地域の直轄事務所があり、世界120以上の国と地域のパートナー団体、約280万人のメンバーとともに環境保全活動に取り組んでいます。名誉総裁には、2004年より高円宮妃久子殿下にご就任いただいております。

鳥類の保全にはじまったバードライフの取り組みは、近年、鳥類を指標とした生息環境の保全など、より広い範囲の環境保全活動を展開しています。2020年までの活動戦略では、「種の保全」「生息地の保全」「持続可能性の促進」「人々への働きかけ」を4本の大きな柱とし、下記9つの保全プログラムを進めています。

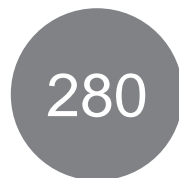
- ①種の保全
- ②重要自然環境
- ③渡り鳥の保全
- ④海鳥と海洋の保全
- ⑤森林保全
- ⑥気候変動
- ⑦移入種への対策
- ⑧地域コミュニティとの連携
- ⑨人材育成



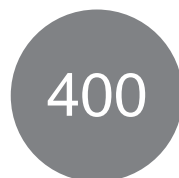
パートナー団体



職員



会員  
(万人)



保護地域の面積  
(万ha)

(2016年時点)

# バードライフ・インターナショナル東京

## BirdLife International Tokyo

バードライフ・インターナショナル東京（以下バードライフ東京）は、日本に設置された地域事務所として、パートナー団体である日本野鳥の会とともに、日本をはじめアジア、アフリカ、南アメリカなど様々な国や地域で環境保全活動に取り組んでいます。とくにバードライフ東京では、バードライフの9つの保全プログラムのうち、「種の保全」「重要自然環境」「渡り鳥の保全」「海鳥と海洋の保全」「森林保全」の5つに加えて、「企業と生物多様性」にも積極的に取り組んでいます。

### 種の保全

Species Conservation



### 重要自然環境

Important Bird & Biodiversity Areas (IBA)



### 渡り鳥の保全

Migratory Birds



### 海鳥と海洋の保全

Seabirds & Marine



### 森林保全

Forest Conservation



### 企業と生物多様性

Business & Biodiversity





© Zheng Jianping



© Tony Martin



© Simba Chan



© Haribon Foundation

# 種の保全

## Species Conservation

バードライフは、長年にわたり鳥類の保全活動に従事しており、世界で絶滅が危惧される鳥類の調査や分析により得られたデータを公表しています。

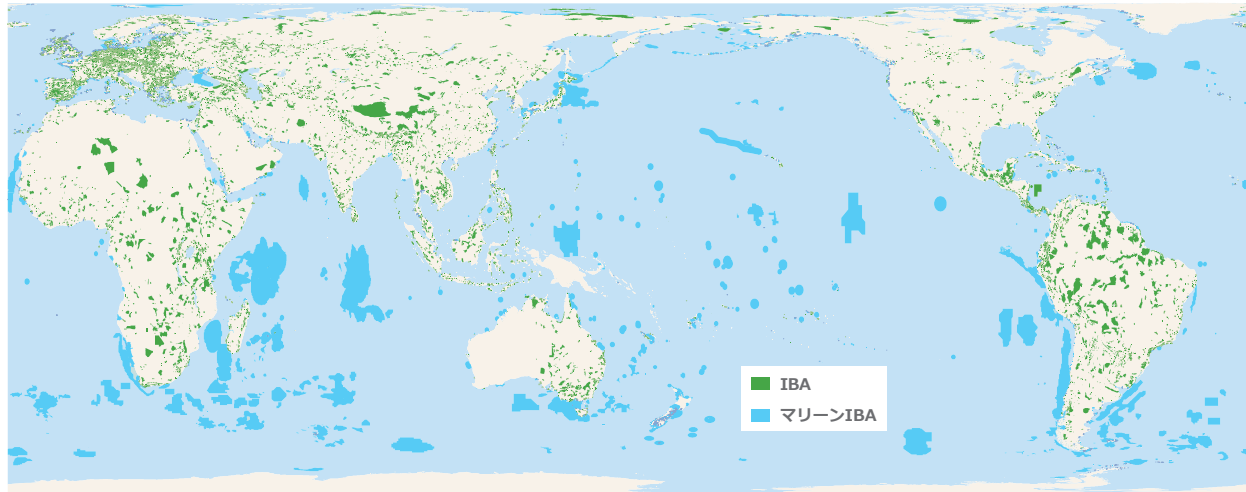
世界の地域別レッド・データブック、アジアの保全戦略をまとめたアジア版鳥類保全戦略、世界の絶滅危惧種チェックリストなどの作成を行っているほか、IUCNのレッド・リスト鳥類版にデータを提供しています。

また、絶滅が危惧される鳥類の保全（Preventing Extinctions Programme）や減少が続く普通種の保全（Keep Common Birds Common）など、世界各地のパートナー団体と連携して保全活動を推進しています。

バードライフ東京ではとくに、ヒガシシナアジサシやシマアオジ、フィリピンワシ、ヘラシギといったアジアの絶滅危惧種の保全活動に取り組んでいます。

# 重要自然環境

## Important Bird & Biodiversity Areas (IBA)



IBAとは、鳥類を指標に選定された生物多様性の高い地域のことです。IBAの目的は、鳥類や生物多様性にとって重要な地域を可視化することにより、保全や持続的な管理を促進させることにあります。IBAは種や分布、生息地など、生息状況に関する世界共通の基準を用いて選定され、世界で12,000ヶ所以上、日本では167ヶ所が選定されています。

近年、海域でもマリンIBAの選定を進めているほか、IBAの中でも特に生息環境の破壊や劣化の危機が高い地域を“IBAs in Danger”として選定し、保全活動を優先して行うべく取り組みを進めています。



# 渡り鳥の保全

## Migratory Birds

渡り鳥は生息地の劣化や狩猟などの脅威によって、個体数が減少しており、その多くが地球規模で絶滅を危惧されています。渡り鳥は、繁殖、渡り、越冬のために特定の地域の森林や湿地等に集まる傾向があるため、渡りのルートにある各国が協力して生息地を保全する必要があります。

世界には9つのフライウェイ（渡り鳥の主要な渡りルート）があります。バードライフは、日本を含む国際的枠組みである東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）に参加しており、この地域の渡り性水鳥の保全に取り組んでいます。

また近年、風力発電の普及に伴い、バードストライク（風車に鳥が衝突する事故）により多くの希少な鳥の命が奪われています。バードライフでは、渡り鳥の重要な通り道には風車を設置しないように働きかけるなど、人と自然が共存する持続可能な社会に向けて活動を続けています。





## 海鳥と海洋の保全

### Seabirds & Marine

鳥類の中でも、海鳥は急激にその数を減らしており、約330種いる海鳥の3分の1で絶滅が危惧されています。海洋は世界各国とつながっているため、グローバルな対策が求められています。

バードライフでは、混獲（海鳥を魚と一緒に誤って獲ってしまうこと）を避けるため、新しい漁具の開発や、漁業者への指導、監視員の派遣、各国政府への働きかけなど様々な活動を行っています。

また、マリーンIBA（重要海洋環境）の選定を通して、生物多様性の高い海域基礎データを整備することにより、各国の海洋保護区の制定や保全政策に貢献し、海洋と海鳥の保全を推進しています。



バードライフは、生物多様性保全や気候変動対策として、世界各地で森林の保全に取り組んでいます。

Forests of Hope プロジェクトでは、現存する熱帯林の保全と復元を目指し、活動に地元・周辺地域の人々が参加し、環境に配慮した持続可能な生活を促進する仕組みづくりを進めています。現在では東南アジア、アフリカ、南アメリカなど世界に 15 の Forests of Hope サイトがあります。

また、IBA など生物多様性にとって重要な地域で植林を行うなど、積極的に森林保全・再生に携わっています。

## 森林保全

### Forest Conservation



# 企業と生物多様性

## Business & Biodiversity

生物多様性とそれを取り巻く環境は、企業活動の重要な基盤であり、企業は、自然から有形無形の恵みを享受しています。企業にとって、生態系や生物多様性の保全を行うことは、ビジネスを持続可能なものにするために必要な取り組みと言えます。

バードライフ東京では、企業と生物多様性に関するコンサルティング業務やセミナーなどを積極的に手掛けており、生物多様性に関する企業活動の評価や環境マネジメントシステムに生物多様性への視点を取り入れるための支援を行っています。

また、生態系サービスや企業のCSR活動を評価する手法の開発も行っています。



# 普及啓発・ファンドレイジング

## Awareness & Fundraising

環境を守るためには、ひとりひとりの意識と取り組みが大切です。バードライフ東京は、チャリティイベントやサポーター制度を通して、環境に関する普及啓発活動に積極的に取り組んでいます。

**ガラ・ディナー**      バードライフ東京では、チャリティ・ディナーを東京と大阪で、それぞれ年に1回開催しています。資金獲得だけでなく、参加者に環境保全活動への理解を深めていただくことを重視しています。

**サポーター制度**      rFriends of BirdLife”と呼ばれる個人サポーターや賛助企業・団体を募り、絶滅を回避するために支援が必要な鳥類や生息地の保全活動を推進しています。詳細は、下記のウェブページをご覧ください。  
<http://tokyo.birdlife.org/about/support.html>





Partnership for  
nature and people

一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京  
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-1 ユニゾ蛸殻町北島ビル1階  
Tel: 03-6206-2941 / Fax: 03-6206-2942  
URL: <http://tokyo.birdlife.org>